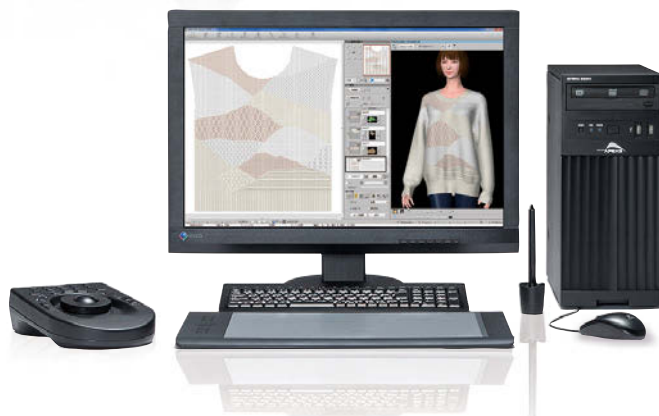


Ever Onward

アニュアルレポート 2016

2016年3月期

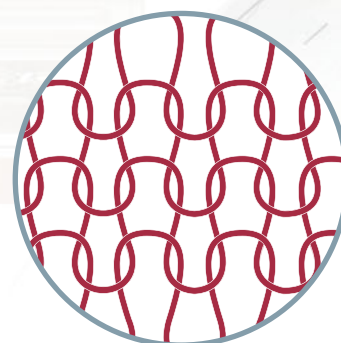


多彩なニットを創り出す

よこあみき 横編機のリーディングカンパニー

横編機は、デザイン性の高いニットウェアの生産で活躍しています。

シマセイキは、コンピュータ横編機メーカーとして常に新しい技術開発への挑戦を続け、ユーザー業界をリードしています。



ニットの特長

ニットとは、ループ状の編地になっている服や生地のことです。伸縮性があり、からだにやさしい衣料で、通気性が良くカラーバリエーションも豊富です。

適した素材を使用することで、シーズンにかかわらず一年中着用することができます。

ホールガーメント®横編機で作製したニットワンピース



シマセイキ 5つの特長

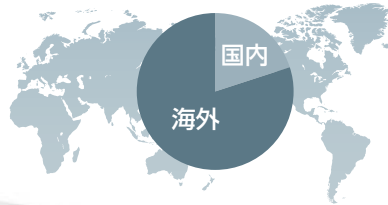
1 技術革新を続けて半世紀

50年以上前、手袋編機メーカーとしてスタートした当社は、機械と電子の技術を融合した総合メカトロニクス企業として、技術革新を通じて世界のニット・アパレル産業の発展に貢献し続けています。



2 海外販売が80%以上

ファッション産業の中心地イタリアや、世界最大のニット生産地である中国・香港、新たな生産拠点として注目される南アジア・ASEAN諸国など、全世界で高いシェアを誇っています。



コンピュータ横編機「SRY®」で作製したニットコート

3 日本国内での一貫生産による“ジャパंकオリティ”

日本国内にある本社工場で製造を全て行っています。部品から組み立てまでの一貫生産により多種多様な製品を効率的に生み出すとともに、耐久性・安定性などの優れた品質を確保。世界中の顧客から高い信頼を獲得しています。



4 横編機の最高峰ホールガーメント®

「一着丸ごと縫い目がないニット」を作るホールガーメント®横編機は、シマセイキの独自開発。高いデザイン性と着心地の良さを実現するとともに、カットロスや縫いしろが不要で省資源なうえ、世界的な縫製技術者の不足という問題の解決にも大きく寄与します。



5 アパレル分野以外にも積極展開

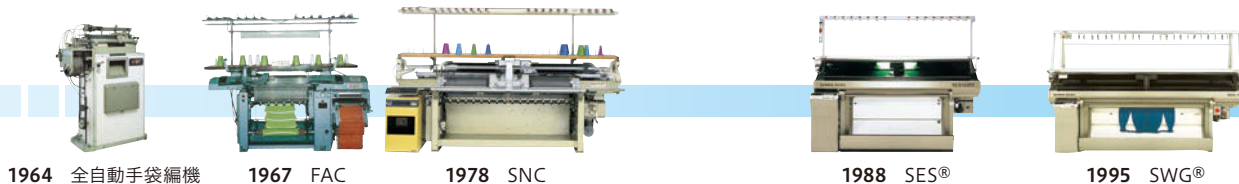
デザインシステム関連事業では、デザインシステムや自動裁断機などをアパレル以外の分野にも幅広く提案。高性能・高品質の製造機器をさまざまな業界に提供しています。



Ever Onward — 限りなき前進

経営理念「Ever Onward — 限りなき前進」のもと、たゆまぬチャレンジ精神でこれからも革新的な製品を世に送り出していきます。

横編機 手袋編機



1964 全自動手袋編機

1967 FAC

1978 SNC

1988 SES®

1995 SWG®

デザインシステム

*インクジェット
プリンティングマシン



1981 SDS®-1000

1985 SDS®-380

1988 SDS®-480 SGX

2000 SDS®-ONE

自動裁断機



1991 P-CAM®

1995 P-CAM®160

事業紹介

当社グループは、横編機とデザインシステムの製造・販売を軸に4つのセグメントで構成されています。



横編機事業

世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売する当社の中核事業。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント®横編機、ループプレッサーを備えた「SRV®」、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」、さらに高速編成を可能にする「SVR®」など、独自の開発力を活かした豊富なラインアップで進化し続けています。



MACH2®XS



デザインシステム関連事業

アパレル業界をはじめ、さまざまな業界のものづくりを支援するデザインシステムを提供。高精細なバーチャルサンプルや三次元シミュレーションなどを駆使することで、多彩なデザインを可能にすると同時にリードタイムの短縮とコスト削減を実現。また、自動裁断機「P-CAM®」シリーズによる異業種への展開も積極的に進めています。



SDS®-ONE APEX3



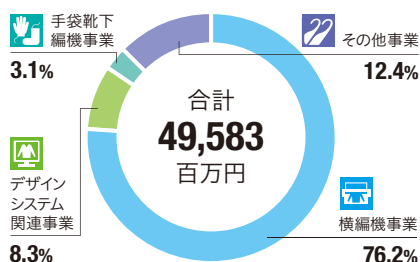
手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化を進め、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。

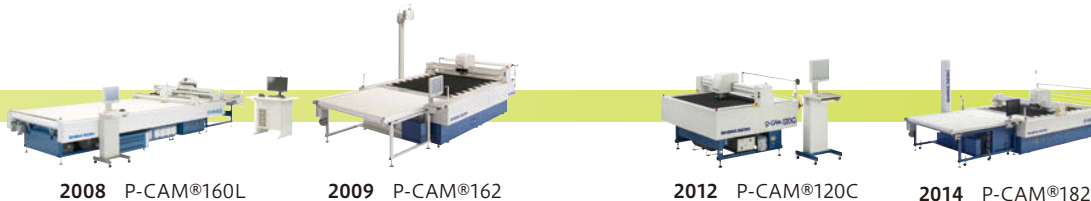
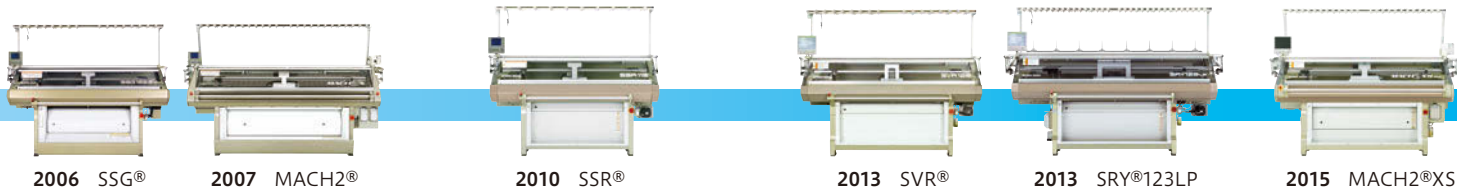


その他事業

当社編機、システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。



1962年、「手袋編機の自動化」という難課題を掲げて、現社長・島正博により設立されたシマセイキ。その後も「最高機能の製品を経済的な価格でお届けする」という企業スピリットのもと、コンピュータ横編機、デザインシステムなど数々の「世界初」、「オンリーワン」の技術・製品で業界をリードしてきました。特に1990年代に開発したホールガーメント®横編機は、「産業革命に匹敵する」と評されるほどのインパクトを世界のニット産業に与えました。これからも当社は、技術革新を通じてアパレル業界をはじめ、さまざまな業界の発展に寄与するとともに、創造力を発揮して優れた製品の開発に尽力していきます。



地域別売上高比率

欧州市場

多くのファッションブランドが展開しているイタリアでは、ホールガーメント®横編機や「SRY®」が浸透。英国、スペインなどでは国内生産への回帰が見られ、東欧諸国はボリュームゾーン商品の生産拠点として注目されています。

12.9%

10.0%

中東市場

欧州、ロシア向け衣料の生産地であるトルコでは、ニット産業が活発です。近年は、製品の付加価値化や生産性向上へのニーズも高まっています。

アジア市場

世界最大のニット生産拠点である中国では、人件費高騰や縫製労働者の不足などを背景に、ASEAN 諸国やバングラデシュへの生産シフトを加速していますが、競争力の向上に向けて設備投資が回復してきています。

16.5%

日本市場

国内生産回帰の動きがあり、横編機事業が堅調です。また、デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」や「P-CAM®」の導入がアパレル分野以外にも広がっています。

5.4%

その他の地域市場

最大の衣料消費地、米国は輸入品が大半ですが、自国での生産機運が高まっています。ブラジルでは内需向けとして、生産性の高いホールガーメント®横編機が浸透してきています。

地域別売上高比率

55.2%

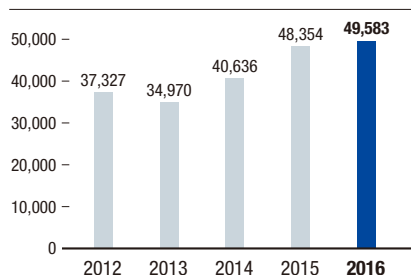
財務ハイライト

株式会社島精機製作所および連結子会社
3月31日に終了した連結会計年度

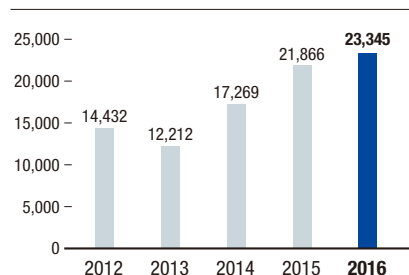
	2016	2015	2014	2013	2012		2016	2016
会計年度:			百万円			増減率 2015/2016	千米ドル	千ユーロ
売上高	¥49,583	¥48,354	¥40,636	¥34,970	¥37,327	2.5%	\$440,034	€388,277
売上総利益	23,345	21,866	17,269	12,212	14,432	6.8	207,180	182,811
営業利益(損失)	5,782	5,745	2,732	(509)	883	0.6	51,313	45,278
税金等調整前当期純利益(損失)	4,803	7,006	7,230	3,363	(537)	(31.4)	42,625	37,612
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	3,271	3,646	4,863	1,754	(642)	(10.3)	29,029	25,615
会計年度末:			百万円			増減率 2015/2016	千米ドル	千ユーロ
総資産	¥126,416	¥126,987	¥119,727	¥112,089	¥106,863	(0.5)%	\$1,121,903	€989,945
純資産	98,293	98,179	93,222	87,382	84,167	0.1	872,320	769,718
1株当たり情報:			円			増減率 2015/2016	米ドル	ユーロ
当期純利益(損失)	¥95.61	¥106.54	¥142.13	¥51.26	¥(18.60)	(10.3)%	\$0.85	€0.75
配当金	37.50	32.50	32.50	25.00	40.00	15.4	0.33	0.29
純資産	2,867.00	2,863.49	2,718.57	2,547.88	2,454.07	0.1	25.44	22.45
財務指標:			%					
ROA	2.6%	3.0%	4.2%	1.6%	(0.6)%			
ROE	3.3	3.8	5.4	2.0	(0.8)			
自己資本比率	77.6	77.2	77.7	77.8	78.6			
海外売上高比率	83.5	84.1	83.6	84.7	87.6			

(注) 読者の便宜のため、円建金額を2016年3月31日現在の為替レートである1米ドル=112.68円、1ユーロ=127.70円でそれぞれ換算しています。

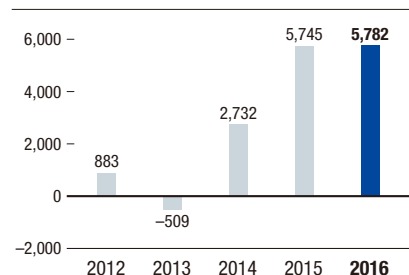
売上高 (百万円)



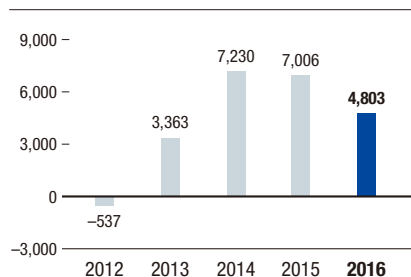
売上総利益 (百万円)



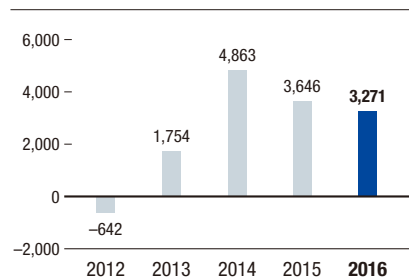
営業利益(損失) (百万円)



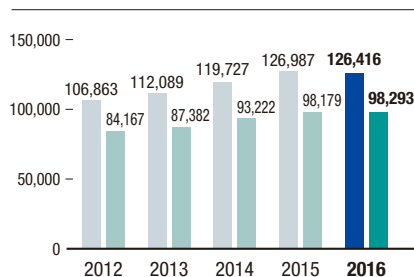
税金等調整前当期純利益(損失) (百万円)



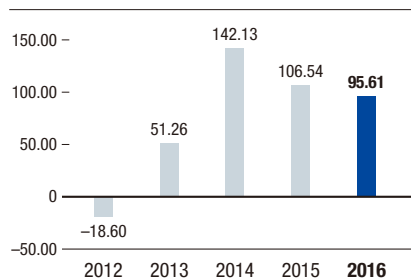
親会社株主に帰属する
当期純利益(損失) (百万円)



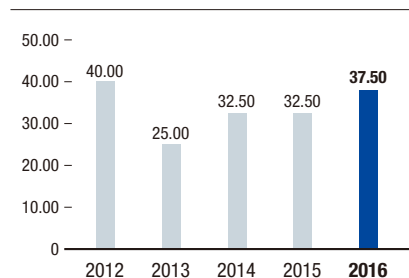
総資産／純資産 (百万円) ■ 総資産 ■ 純資産



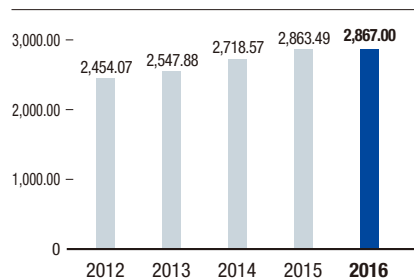
1株当たり当期純利益(損失) (円)



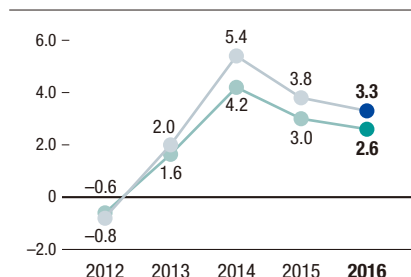
1株当たり配当金 (円)



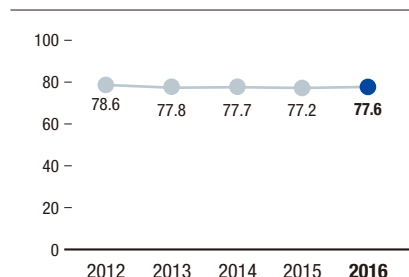
1株当たり純資産 (円)



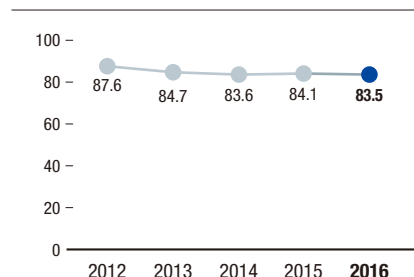
ROA/ROE (%) ● ROA ● ROE



自己資本比率 (%)



海外売上高比率 (%)



3期連続の増収とともに、次期につながる 受注を獲得。これからも世界に向け、 新しいものづくりを提唱し続けていきます。

ホールガーメント®横編機開発20年を迎えた当期は、
イタリア・ミラノで開かれたITMA展への出展を契機に
第4四半期に受注が拡大しました。
次期以降もこの勢いを持続し、
全世界に「ものづくりのイノベーション」を
起こしていきます。



代表取締役社長

島 正博

1962年、当社を設立。
数々の製品の設計開発をリードする。
経営者として、当社を業界の
リーディングカンパニーに育てる。

Q1 当期(2016年3月期)の主な取り組みと業績について説明してください。

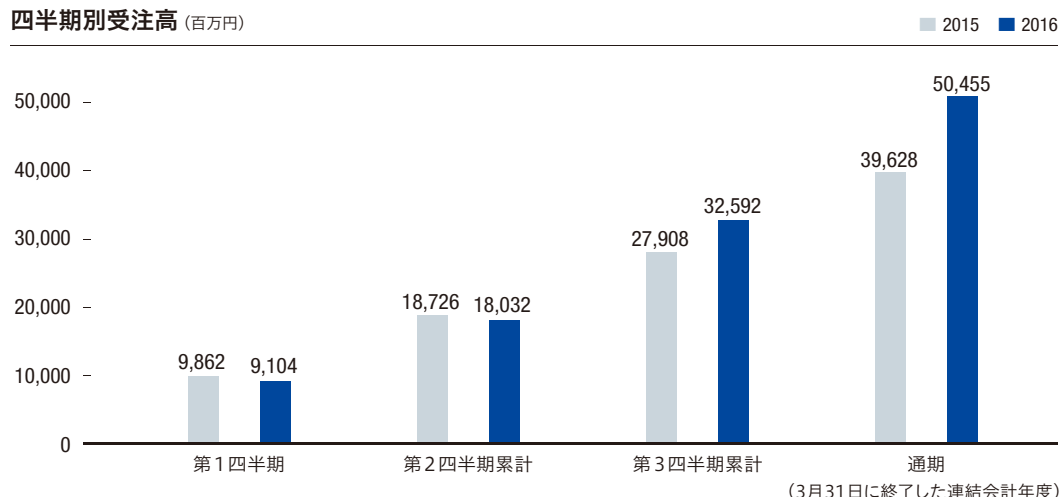
A1 第4四半期に受注が拡大し、製造工場はフル稼働を続けています。

当社がホールガーメント®横編機を開発して20年目という節目の年であった当期は、国内および海外各地のさまざまなユーザーの要望に応えるべく、各市場のニーズに適合した製品の開発やサービスの提供に努めるとともに、各地の顧客に密着した提案活動を展開しました。なかでも、4年に1度の世界最大の国際繊維機械見本市ITMA展が2015年11月にイタリア・ミラノで開催され、当社は世界初の可動型シンカー装置を搭載した4枚ベッドのホールガーメント®横編機の最新機種「MACH2®XS」をはじめ、独自技術を駆使した多彩な製品を全世界のユーザーに披露し、総合力を訴求しました。

当期の連結売上高は、495億83百万円(前期比2.5%増)となり3期連続で増収を達成しました。一方、営業利益は、前期に特別損失を計上したインドネシアの顧客向けの売上債権に、貸倒引当金を追加繰入したことなどで販売費および一般管理費が増加し、57億82百万円(同0.6%増)にとどまりました。また、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益については、それぞれ45億32百万円(同46.5%減)、32億71百万円(同10.3%減)と前期に比べて減益となりました。この主な要因は、期末にかけて急速に進んだ円高により営業外費用で発生した約19億円の為替差損です。

増収・減益という結果でしたが、ITMA展以降、世界各国で受注は着実に拡大しています。特に最大需要期である第4四半期からは例年以上に注文が急増し、期末時点での受注残も非常に多くありました。2016年度に入ってからお客様に製品を早くお届けするため、工場はフル稼働を続けています。今後もこの勢いを持続し、事業全体を新たな成長軌道に乗せていきます。

四半期別受注高 (百万円)





Q2 事業分野別の状況について説明してください。

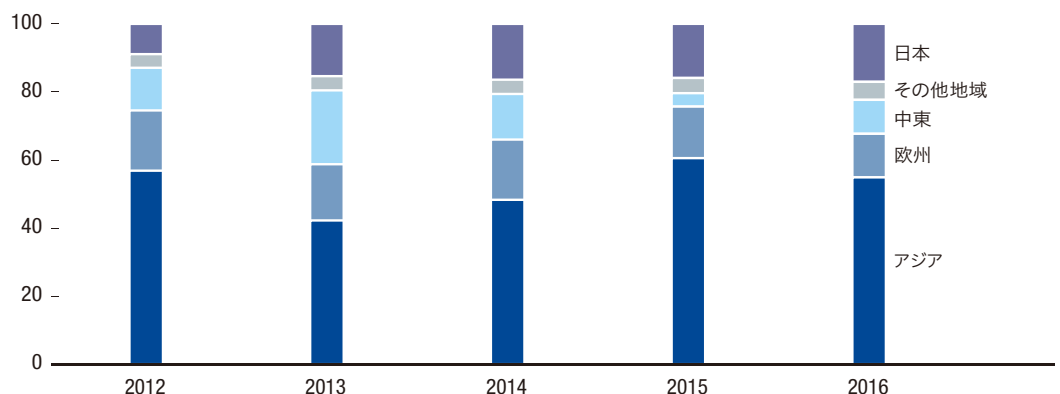
A2 ITMA展での成果もあり、ホールガーメント®横編機やデザインシステムの販売が各地で伸長しました。

横編機事業では、主力のアジア市場において欧米アパレルの生産拠点であるバングラデシュやTPPを見据えて設備投資が拡大するベトナムなどのASEAN諸国で、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」やさらに高速編成を可能とする「SVR®」を中心に販売を伸ばし、事業全体を牽引しました。中国市場では、周辺国へのシフトによって欧米アパレル向けの生産は伸び悩んでいますが、一方で経済成長に伴う中間層の増加を背景に、国内市場向けのより上質な衣料製品の需要が徐々に増えてきており、この新たなニーズに向けた提案営業を進めたことで、前期並の売上を確保することができました。このほか、韓国市場では、ホールガーメント®横編機の最新機種「MACH2®XS」の導入がいち早く進みました。

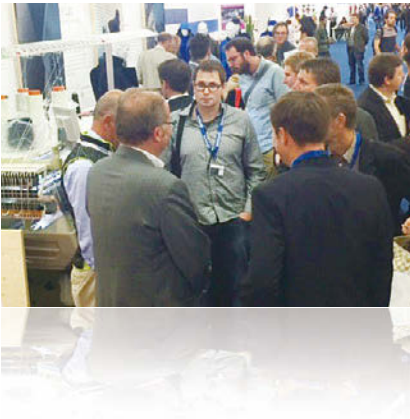
また中東のトルコ市場も、欧州アパレルの短納期要請への対応によって競争力を取り戻し、設備投資が回復したことで「SVR®」を中心に大幅に売上が増加しました。

先進国市場では、ファッション産業の中心地イタリアが回復基調となったほか、他の欧州

地域別売上高比率 (%)



(3月31日に終了した連結会計年度)



諸国や米国でも自国内生産の機運が高まり販売が増加しました。また日本においても、ホールガーメント®横編機「MACH2®XS」を中心に好調に推移しました。

デザインシステム関連事業については、「SDS®-ONE APEX3」が出荷台数を伸ばしました。特に先進国市場ではニットのプログラミングだけでなく、デザインツールとしての活用も広がってきており、テキスタイルやインテリア、家具、雑貨など異業種への導入が進みました。自動裁断機「P-CAM®」も日本を中心に出荷台数を伸ばし、各業種のニーズに合わせて機種バリエーションを増やしたことにより自動車関連、航空機関連、産業資材分野など、幅広い業界で売上が増加しました。

Q3 次期の主な取り組みと業績見通しについて説明してください。

A3 最新機種「MACH2®XS」を核に、ホールガーメント®横編機の拡販を目指します。

先進国での自国生産回帰、主要生産国での当社製品の評価の高まりなど、当社の優位性をグローバルに発揮できる市場環境が整ってきており、次期も引き続き各国・地域に密着した提案活動を積極的に進めていきます。

特に注力する製品は、ホールガーメント®横編機20年の集大成として発表した「MACH2®XS」です。編成できる商品バリエーションの豊富さ、生産性、安定性、操作性など、全てにおいて従来のホールガーメント®横編機を超えた画期的な製品であり、ITMA展以降は世界各国から高評価とともに多数の引き合いを得ています。次期は欧州、米国、韓国、日本などを中心に「MACH2®XS」を積極的に提案していきます。

また横編機事業では、中国市場において市場ニーズが転換期を迎えており、従来よりも高品質かつ競争力の高いニット衣料が求められていることから、きめ細かな技術指導や蓄積したビジネスノウハウの提供によって販売拡大につなげていきます。さらに、ユーザー業界の動きとして、スポーツシューズ関連へのコンピュータ横編機の活用も広がってきており、さまざまな潜在するニーズを掘り起こしていきます。

デザインシステム関連事業では、引き続き「SDS®-ONE APEX3」、「P-CAM®」を中心に、



さらなる営業活動に注力します。「SDS®-ONE APEX3」については「トータルファッションシステム®」の中核として、ニット業界以外への提案をより強化します。また、日本を中心に販売を伸ばしてきた「P-CAM®」も、昨年のITMA展への初出品を機に海外展開を本格化し、国内で培った技術力・品質力を武器に提案を広げていきます。

これらの取り組みにより、次期の連結業績は売上高630億円、営業利益115億円、経常利益110億円、親会社株主に帰属する当期純利益70億円を計画しています。

Q4 株主、投資家の皆様へメッセージをお願いします。

A4 幅広い分野に「トータルファッションシステム®」の提案を広げ、イノベーションを起こしていきます。

当社は株主の皆様に対する利益還元を、経営の最重要課題に位置付けております。利益配分については、長期にわたって安定した配当を継続するとともに、業績の向上を基本として、今後の収益予想や将来への事業展開などを勘案したうえで実施すべきものと考えております。

当期の株主の皆様への配当金については、中間配当金15円、期末配当金はホールガー

中期経営計画の概要





メント®横編機20年の記念配当2円50銭を加えた22円50銭とし、年間配当金は1株につき37円50銭で実施させていただきました。

また2015年8月、当社は中期経営計画「Ever Onward 2017」を発表しました。この中期経営計画は、経営理念「Ever Onward－限りなき前進」を実現していくための3つのキーワード「愛」「創造」「氣」と、10年後のビジョンからなる長期経営方針をもとに策定したものです。創業から50余年を経たシマセイキが次なる50年に向け、世界規模で変化する事業環境の中でさらに企業価値を高めるべく、持続的成長を目指していきます。

これからの時代は、大量生産時代の「分業」の構造を変革し、多品種少量に対応した「一貫したものづくり」がますます求められてきます。それはまさに当社が30年以上前から提唱し続けてきた「トータルファッションシステム®」による全工程の“つながり”にほかなりません。今後も当社は、ホールガーメント®横編機とデザインシステムを核とする「トータルファッションシステム®」によるものづくりの提案を通して、全世界にビッグイノベーションを起こしていきます。

昨年のITMA展では、当社と豊田自動織機様の共同開発による織物向けデザインシステム「APEX-T」も発表されました。高精細なバーチャルサンプルの有効性を高く評価していただいた同社との協業で実現した製品により、ニット以外の分野においても「トータルファッションシステム®」がイノベーションを起こせると確信しています。

今後も当社は、さまざまな業界に貢献しながら、世界のものづくりを変革していきます。株主、投資家の皆様には、引き続き当社への温かいご理解とご支援をお願いいたします。

代表取締役社長

島 正 博

ITMA 2015 2015年11月12日～19日開催 ～シマセイキの圧倒的な総合力を世界にアピール

ホールガーメント®横編機20年の節目となる2015年、当社はイタリア・ミラノで開かれた世界最大の国際繊維機械見本市「ITMA 2015」に出展しました。

ブースではホールガーメント®横編機「MACH2®XS」、デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」をはじめ、欧州初出展となる自動裁断機やインクジェットプリンティングマシンなど多彩な商品展示とデモを実施。「トータルファッションシステム®」を具現化できるものづくりと流通のイノベーションを提案し、総合メカトロニクス企業としての高い技術力を全世界のお客様にアピールしました。

横編機

ホールガーメント®横編機の集大成「MACH2®XS」

世界で初めて可動型シンカー装置を搭載したホールガーメント®横編機「MACH2®XS」を同展示会で初披露。この最新機種により、生産性向上に加え、立体的なデザインをより安定的に編成することが可能になりました。



バーチャルフィッティングシステム

カメラの前に立つだけで試着体験

ブース内には「バーチャル試着」ができるフィッティングルームも初出品。モニター前に立つとカメラが人の動きを認識し、試着画像が合成されます。「SDS®-ONE APEX3」で配色展開などの加工を行った写真やバーチャルサンプルも取り込み可能です。

製品活用紹介

インテリアや家具業界に向けてアピール

インテリア展示コーナーでは椅子カバーや行灯、着物、掛け軸など、さまざまなアイテムを通してMADE IN JAPANをアピールするとともに、インテリアや家具分野にも当社の横編機で編成したニット製品が応用できることを訴求しました。

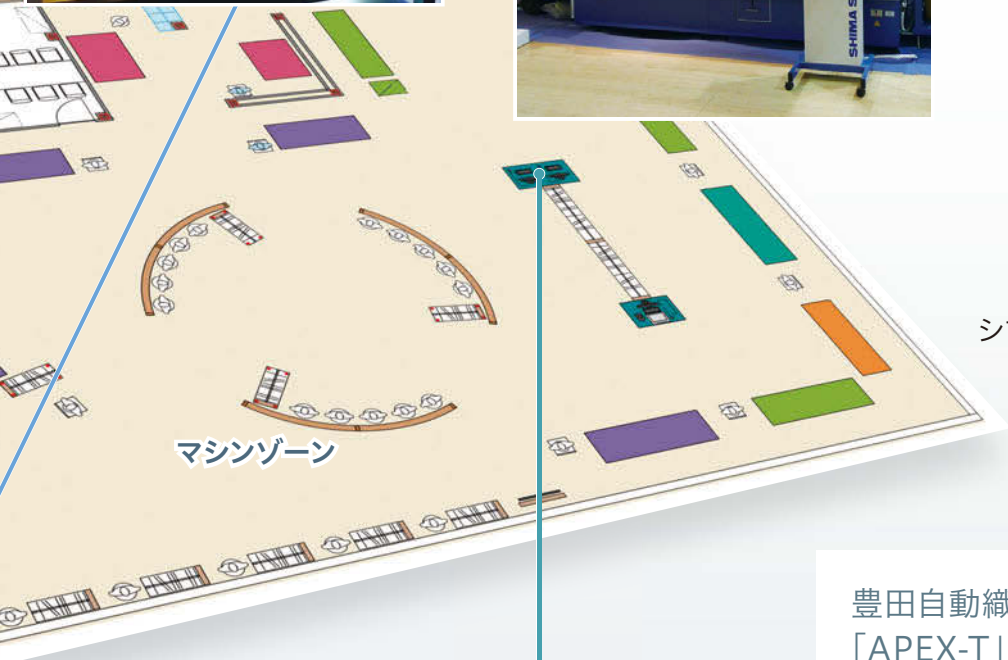
●Milano



自動裁断機

自動裁断機を欧州初出展

国内で高い実績を持つ自動裁断機「P-CAM®」を初出展。近年、アパレル業界のみならず産業用資材の裁断に対応した機種など、シリーズの拡充を図っています。同展示会では、横編機だけでなくとどまらない当社の総合力をアピールしました。



マシンゾーン

シマセイキブース

生産管理システム

複数のニット生産の全工程を見える化

昨今、ニット生産拠点の分散がみられる中、ユーザーであるニットメーカーでは、その生産管理の面も複雑化してきており、それらのサポートも非常に重要になってきています。全工程が可視化できる生産管理システム「Shima KnitPLM」を開発し、参考出品しました。

豊田自動織機様との共同開発による「APEX-T」を発表

豊田自動織機様のブースで、同社とシマセイキの共同開発による織物用デザインソリューションシステム「APEX-T」が発表されました。この共同開発は、デザインシステムを中核とする「トータルファッションシステム®」のコンセプトに着目した豊田自動織機様からの提案で実現したものです。「APEX-T」の活用によって織物のデザイン作成からシミュレーション、実際の生産まで「All in One」での管理が実現します。今回の協業を機に、当社はテキスタイル分野のノウハウを蓄積するとともに、ニット・アパレル以外の分野への提案を広げていきます。



最高の品質を目指し、デザインシステムでチャレンジ

設立70年を機に、タグライン「TIMELESS WORK. ほんとうにいいものをつくろう。」を策定し、高品質を目指したものづくりにチャレンジする三陽商会様。

その中で、当社が提唱する「トータルファッションシステム®」の中核を担うデザインシステム「SDS®-ONE APEX3」がどのように活躍しているかお話を伺いました。

TIMELESS WORK.

ほんとうにいいものをつくろう。

高品質製品を作るための デザインシステム活用フロー



お客様が魅力を感じる商品を提供していくために、部門スタッフ全員でアイデアを出し合い、具体的な形に落としていきます。



デザイナーがシマセイキのデザインシステムを使って、さまざまなシミュレーションを行い、最適な商品のデザインを決めていきます。

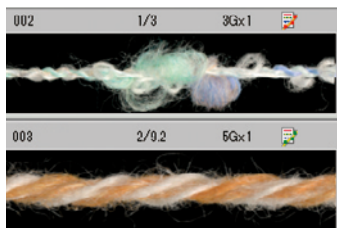


デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」

新潟にある自社の「アトリエ」で、編地データを整えてサンプルを作成。

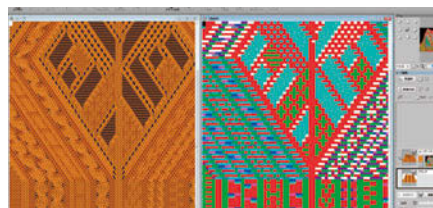


SHIMA SEIKI Value



使いたい糸をスキャンして取り込み、最終製品のイメージをシミュレーションできます。また、バーチャルサンプルを使うことで、仕上がりのイメージを皆で共有する“目線合わせ”が可能になります。

SHIMA SEIKI Value



デザインシステムは、バーチャルのデザインデータを制作すると同時に、実際に横編機を動かすための編地データも生成するので、短時間でサンプルを作成できます。



デザインシステムによる“目線合わせ”を活かし、 これからもお客様に「いいもの」を提供していきます

株式会社三陽商会
取締役 兼 専務執行役員 事業本部長 企画生産管掌 **佐久間 睦 様**



高品質なものづくりのため、 ニットも社内で企画デザインしています。

レインコートから発祥した当社は、長年コートなどの布帛の製造販売を主力としてきましたが、お客様へのシーン提案の幅をより広げていくため、約20年前にニット製品を専門に開発する組織を設立しました。それ以来、ニットにおけるものづくりも強化を図っています。

当社の合言葉は「ほんとうにいいものをつくろう」。ニット分野においても各ブランドにふさわしい、高品質なものづくりに注力しています。

ニットでは特に“目線合わせ”が重要。 デザインシステムは欠かせない武器です。

布帛製品の場合は、生地を見ればある程度仕上がりイメージが皆で共有できますが、ニット製品は素材が糸のため、イメージの共有、すなわち“目線合わせ”が難しいという問題がありました。

その課題に悩んでいるときに出会ったのがシマセイキのデザインシステムでした。ものづくりに携わる全てのスタッフ間での“目線合わせ”が容易になり、デザインシステムを活用し、リアルなビジュアルサンプルをシミュレーションすることで、工程の短縮や効率化のみならず、品質をさらに高めることができます。

新潟の「アトリエ」で生産工場との連携に取り組んでいます。

当社では、ニット生産の集積地である新潟に開発拠点として「アトリエ」を設け、デザイン力を強化するとともに、生産工場との協力関係を強化しています。

今後も「アトリエ」と工場間でデータでの連携を高めるなど、企画・デザインから生産までのプロセスの中でシマセイキのデザインシステムをフルに活用して、より高品質な製品づくりを目指していきます。また、ネット販売事業においても3Dバーチャルシミュレーションを活用するなど、さらなるお客様の満足度向上をこれからも追求していこうと考えています。

株式会社三陽商会 www.sanyo-shokai.co.jp

1943年 設立

1977年 東京証券取引所市場第一部指定

2015年 J∞QUALITY 商品認証
第1号を取得

2013年に設立70年を迎えた、東京に本社を置く総合アパレル企業。「100年コート」で日本が世界に誇る品質の証であるJ∞QUALITY商品認証の第1号を取得するなど、価値あるものづくりにこだわり、多数のブランドを展開。また、「サンヨー・アイストア」などEコマース事業の拡大を推進。最近では「服育」や「わたつむぎ」などのCSR活動にも注力している。

EPOCA

EPOCA
UOMO



AMACA

TO BE CHIC

4. サンプルでの確認



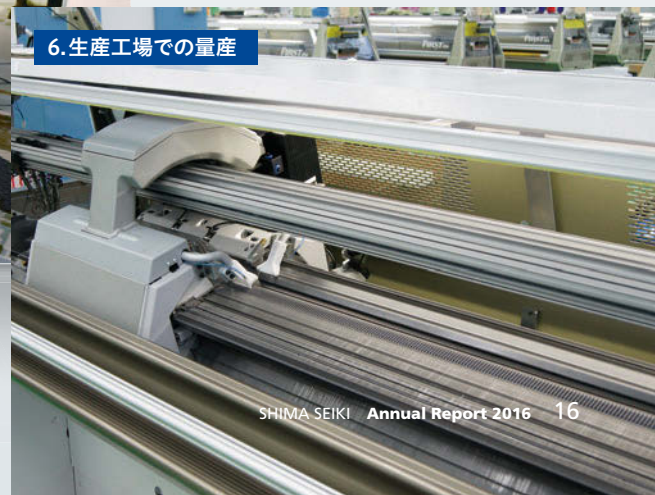
展示会では、ブランドごとに店舗を想定し、出来上がった商品を紹介していきます。外部関係者から評価をいただき、色、サイズなど生産量を判断しています。

5. 展示会開催



「アトリエ」で作った編地データを生産工場に送れば即生産がスタート。タイムリーに商品が店頭で陳列されます。

6. 生産工場での量産



「アトリエ」で実際に編んだサンプルの風合いや手触りをしっかり確認し、商品の完成度をさらに高めています。

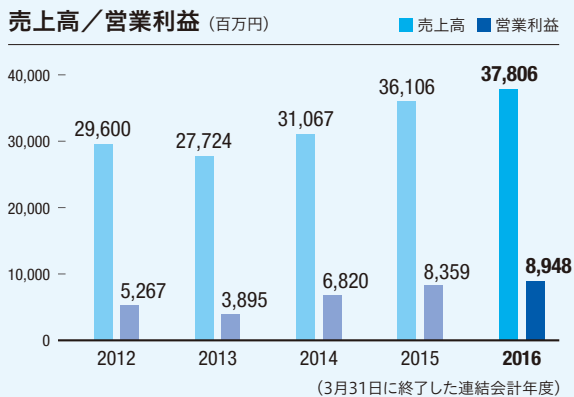
当期の概況と次期の見通し

当社グループは、事業を「横編機事業」「デザインシステム関連事業」「手袋靴下編機事業」「その他事業」の4つのセグメントに区分しています。



横編機事業

売上高／営業利益 (百万円)



当期の概況

主力のアジア市場では、欧米アパレルの生産拠点であるバングラデシュや旺盛な設備投資が続くASEAN諸国で、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」や高速編成が可能な「SVR®」を中心に販売が増加しました。中国市場では、市場ニーズが生産地から消費地へと変化してきており、国内需要をターゲットとした提案型営業を進めたことで前期並の売上となりました。また韓国市場では、ホールガーメント®横編機の最新機種「MACH2®XS」の導入がいち早く進みました。中東のトルコ市場においても、欧州アパレルの短納期要請への対応によって設備投資が回復し、「SVR®」を中心に大幅な売上の増加となりました。

一方、「消費地型生産」の動きが顕在化してきた欧米先進国市場では、11月のITMA展以降、イタリアをはじめ各国で「MACH2®XS」や織物風合いのニットが編成できる「SRV®」を中心に受注が拡大しました。また、日本市場においても「MACH2®XS」を中心に好調に推移しました。

これらの結果、横編機事業の売上高は、378億6百万円(前期比4.7%増)となりました。

次期の見通し

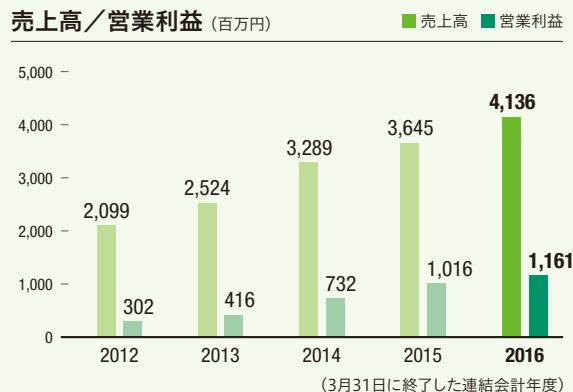
バングラデシュやASEAN諸国では、コストを重視した大量生産型のものづくりが引き続き拡大すると見込まれ、「SSR®」や「SVR®」を中心にさらなる拡販を進めていきます。一方、中国市場では、品質が重視されるSPA(製造小売)ブランド向けや国内富裕層向けなどの中高級品ゾーンのものづくりに移行が進んでいることを受け、ホールガーメント®横編機を含む高機能機種種の提案活動をさらに強化していきます。また、設備投資が大幅に回復した中東のトルコ市場でも、引き続き「SVR®」を中心として旺盛な需要に対応していきます。このほか、ユーザー業界の動きとして拡大してきているスポーツシューズ関連分野への提案活動にも注力していきます。

先進国市場については、ホールガーメント®横編機「MACH2®XS」を戦略機種と位置付け、デザインシステムとの連携による「消費地型生産」の提案を強化していきます。

これらの施策により、次期の横編機事業の売上高は、481億円(前期比27.2%増)を見込んでいます。



デザインシステム 関連事業



当期の概況

デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」は、ニット業界での拡大とともにテキスタイルやインテリア、家具、雑貨などの異業種にもデザインツールとしての導入が広がり、出荷台数を伸ばしました。

自動裁断機「P-CAM®」は、各業界のニーズに合わせて機種バリエーションを増やしたことで、アパレル以外の幅広い分野で売上が増加しました。

これらの結果、デザインシステム関連事業の売上高は、41億36百万円(前期比13.5%増)となりました。



次期の見通し

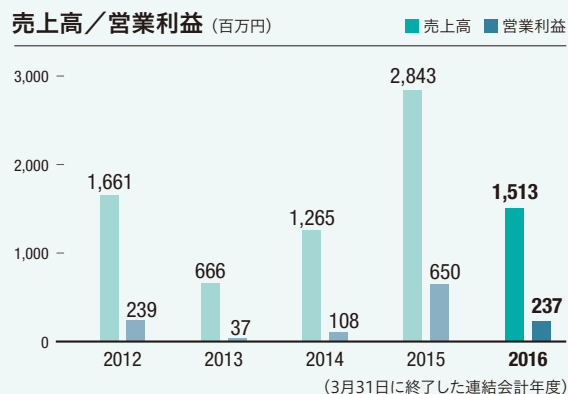
「SDS®-ONE APEX3」については、高速かつ高精細な3Dバーチャルシミュレーション機能を、ファッション業界にとどまらず幅広い分野に積極的に提案し、新規需要をさらに開拓していきます。

また、自動裁断機「P-CAM®」については、ユーザーに密着した技術サービスと海外市場での販売ネットワークの拡充に努めるとともに、自動車関連、家具関連、航空機関連、産業資材分野など、異業種分野への営業活動を強化し、さらなる販売拡大を図ります。

これらの施策により、次期のデザインシステム関連事業の売上高は、53億円(前期比28.1%増)を見込んでいます。



手袋靴下編機事業



当期の概況

手袋靴下編機事業は、前期に売上を大幅に伸ばした反動に加えて、作業用手袋の需要が落ち込んだことで、売上高は、15億13百万円(前期比46.8%減)となりました。

次期の見通し

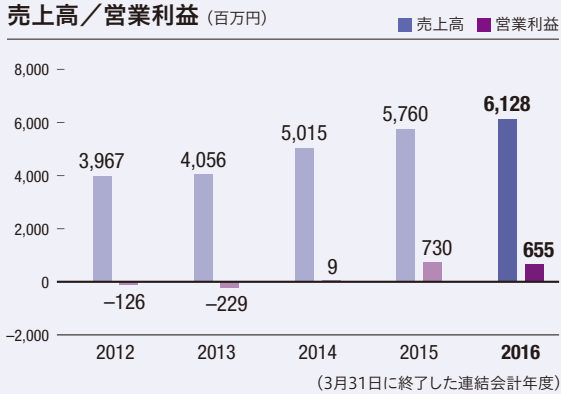
医療用、精密作業用など、高付加価値分野における需要の掘り起こしを国内外で進めるとともに、顧客に密着した提案活動を強化し、売上回復を図ります。

次期の手袋靴下編機事業の売上高は、20億円(前期比32.2%増)を見込んでいます。



その他事業

売上高／営業利益 (百万円)



当期の概況

保守部品の販売や、カシミア関連事業が好調に販売を伸ばした結果、売上高は、61億28百万円(前期比6.4%増)となりました。

次期の見通し

次期についても、当期同様の活動を展開します。

次期のその他事業の売上高は、76億円(前期比24.0%増)を見込んでいます。

TOPICS

業界にイノベーションを起こす「世界初」の紡績技術をグループ会社が開発

シマセイキグループの東洋紡糸工業は、2015年11月、世界初の紡績技術「E-FILU(イーフィール)」を発表しました。

従来の紡績法は紡績工程で繊維にダメージを与えるため、時間の経過とともに変色や風合いの劣化などの問題がありました。これに対しイーフィールは、繊維の状態をほぼ損なうことなく、これまでになかった白度や鮮やかな発色の糸を製造できます。

同社は1930年に日本で初めてカシミア糸の生産に成功するなど、カシミア紡績で世界有数の品質、技術を有する企業ですが、この技術はカシミア以外の動物繊維にも応用できます。当社グループでは、この革新的な紡績技術を活かし、製品力のさらなる強化を図っていきます。



イーフィールのサンプル

米国ロサンゼルスで個展を開催し「トータルファッションシステム®」を訴求

2015年9月に開設したロサンゼルスのショールームで2016年2月29日から5日間、個展「Global 3D Knitting Seminar」を開催しました。西海岸に集積するニットメーカーや大手スポーツアパレルなどに、「SDS®-ONE APEX3」を中核とする「トータルファッションシステム®」をアピールし、米国市場に新しいものづくりを浸透させることが狙いです。

会場では連日、当社製品を活用する多彩なユーザーによるセミナーを実施。その効果もあり、2、3日にわたって来場する積極的なお客様も多く、ニットメーカーのみならず、家具メーカー、スポーツアパレルなど多様な業種からの引き合いを得ることができました。



セミナーの様子

研究開発活動

当社は創業以来「創造性に基づく独自の技術開発」を基本に、基板設計からソフトウェアまで自社開発で取り組んでいます。

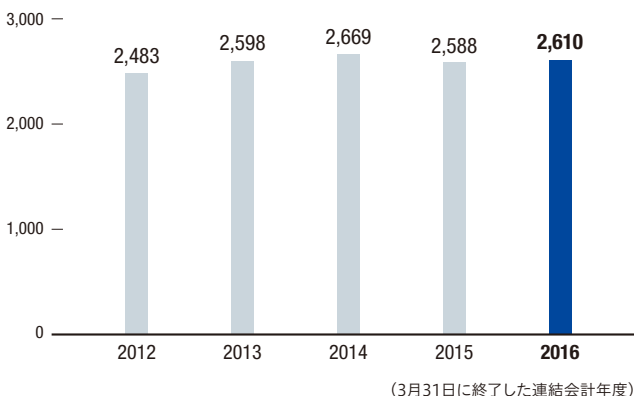
当期も、最新鋭のホールガーメント®横編機「MACH2®XS」の機種バリエーションを拡充し、さらに、編出し時に無駄を生まない効率的なものづくりを実現する装置を新たに開発し、ホールガーメント®横編機の進化を後押ししました。

ホールガーメント®横編機のミニタイプにおいても従来は帽子、マフラーなどファッションアイテム向けが中心でしたが、産業資材など非衣料用途にも広がりを見せており、これらに適用する編機の開発を進めてきました。

また、インレイ編みに特殊な加工を施すことで独特な風合い、より快適な着心地が得られる技術「KNEAVE®(ニーヴ)」や、インレイ技術を活用したホールガーメント®製品「Airdrobe®(エアドロブ)」のサンプル開発も行い、従来にはない発想で編成技術の開発に取り組んできました。

自動裁断機「P-CAM®」では、裁断時に生地を保持するための吸引力を強化したタイプを追加するなど、幅広い産業での需要に対応するための開発を強化しています。

研究開発費 (百万円)



知的財産活動

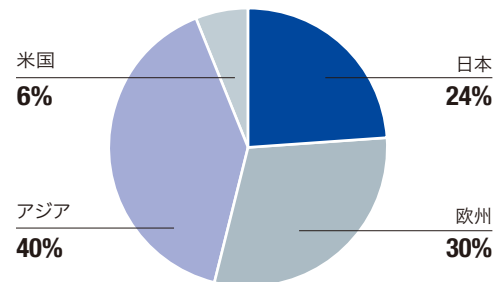
成長力の源泉である研究開発の成果を、知的財産権として保護し活用する体制を整えています。

知財戦略においては「横編機の技術特許」だけでなく

「ニットの編成技術」や「デザイン技術」など幅広い分野で特許取得を進め、蓄積した技術・ノウハウは全てデータベース化して社内で共有しています。

2015年度の当社が保有する国内外の特許件数は1,500件以上となっており、特に近年はアジア地域での知的財産権保護を強化しています。

地域別特許比率(2015年度)



環境活動

当社では、生産部門での省エネ推進や大規模な太陽光発電システムの導入など、環境に配慮した事業活動を推進しています。2015年10月に、本社を対象にISO14001の認証を取得しました。管理指標には、各種環境負荷の低減や工場緑化、再生可能エネルギーの使用促進などとともに、ホールガーメント®横編機やデザインシステムをはじめとする「環境配慮型製品」の開発・提供も含めており、事業を通じて地球環境保全に貢献していきます。

事業継続計画(BCP)

当社では、大規模災害や事故等の発生時においても社員やその家族および関係者の安全を確保しながら、事業活動の中断を最小化し、お客様への製品の供給責任を果たせる体制整備に取り組んでいます。

自らが被災した場合を想定して、事業を早期に復旧するための準備を平時から行い、災害が起きたときには、事業継続計画に基づき「危機管理本部」を立ち上げ、迅速に対応することとしています。

基本方針と体制

当社グループは、経営の効率化と健全化、透明性の向上を図り、ステークホルダーを重視した経営を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題と位置付けています。

当社は監査役設置会社であり、取締役会制度と監査役会制度の機能を十分に発揮させるとともに、監査役、内部監査室、会計監査人がそれぞれの独立性を維持しながらも連携して監査を実施することで、適正で効果的なコーポレート・ガバナンスを実行する体制を構築しています。

ガバナンス体制

(取締役・取締役会)

取締役会は取締役11名で構成され、月1回以上の開催により業務執行の監督にあたっています。内1名は社外取締役で、外部からの視点を通じて経営体制の強化を図っています。当期は13回の取締役会を開催しました。なお、2016年6月より社外取締役を1名増やし2名とすることで、外部からの視点を通じた経営体制の強化をさらに進めていきます。

(監査役・監査役会)

監査役は、社外監査役2名を含む4名から構成され、取締役の職務執行と経営状況の監査を行っています。社外監査役は弁護士、公認会計士・税理士としての専門的見地から取締役業務の監査を行っています。当期は13回の監査役会を行いました。

(内部監査室)

内部監査室を設置し、業務全般の内部監査のほか、コンプライアンス状況やリスク管理状況、財務報告を含めた内部統制監査を年間監査計画に基づき実施しています。

(会計監査)

会計監査人として大手前監査法人を選任し、定期的に会計監査と内部統制監査を受けることで、監査の実効性を高めています。

内部統制システム

当社は内部統制システムの構築・運用を、企業理念・目標を実現させるための重要な要件であると考えており、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を策定し、取り組んでいます。また、内部統制システム推進本部に加え、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、情報セキュリティ委員会を設けて内部統制の強化に努めています。

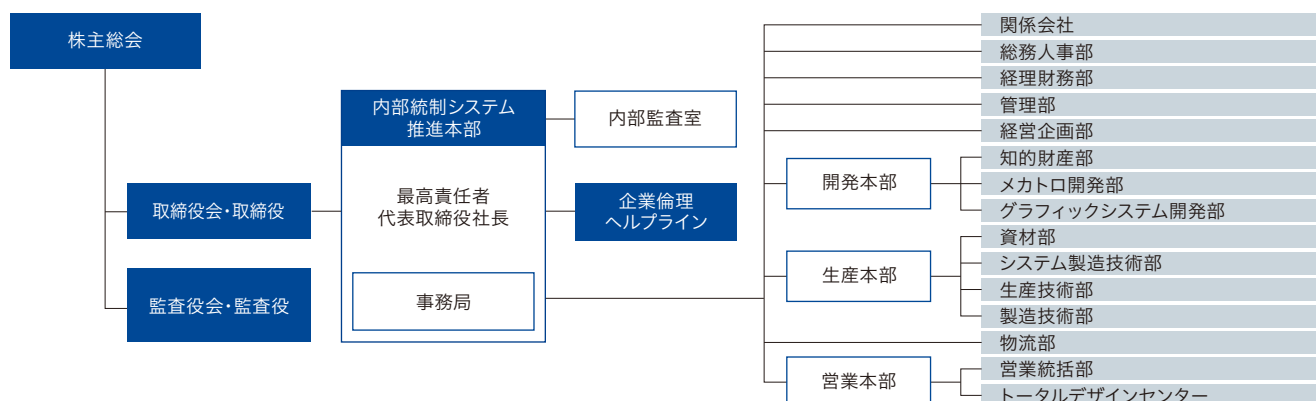
「財務報告に係る内部統制」についても、財務報告の信頼性を確保するため、公正かつ公平なディスクロージャーを推進する体制を整えています。

コンプライアンスへの取り組み

当社は「シマセイキグループ行動基準」の総則に「法令・企業倫理の遵守」を掲げて関係法令の遵守や社会規範の尊重に努めています。その実現のため、コンプライアンス委員会を設置し、定期的にコンプライアンスの状況をチェックするとともに、研修などを通じて計画的にコンプライアンスの定着を図っています。

また、法令違反や人権侵害などの報告・通報窓口として、社内外に「企業倫理ヘルプライン」を設けて運用を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



取締役会の実効性確保

当社では、取締役会が効果的・効率的に機能できるよう、取締役は15名以内の適切な人数で構成し、取締役会全体としての知識、経験、能力、専門性等のバランス、多様性が確保されるように配慮するものとしています。また社外取締役に、独立性に関し当社の定める基準を満たすとともに、多様な視点を取り入れる観点から、広範な知識と豊富な経験および企業経営、法務、財務・会計等の出身分野における実績を有する者から選任することとしています。

また、取締役に対して、取締役会の実効性に関して段階評価およびコメントを記載する方式の質問票を配布し、その結果をもとに、取締役会において分析・評価を実施しました。

政策保有株式

当社は、事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断する場合に、政策的に株式を保有します。また、主要な政策保有株式については、取締役会で保有の必要性を検証します。政策保有株式に係る議決権の行使については、その議案の内容を精査し、株主価値の向上に資するものか否かを判断した上で適切に行使します。

関連当事者間の取引

当社が、当社役員や当社役員が実質的に支配する法人、または主要株主等と取引を行う場合には、あらかじめ取締役会に付議し、その承認を得るものとします。

取締役報酬決定の方針・手続き

取締役の報酬は、固定報酬と当該事業年度の業績に連動した役員賞与によって構成し、また、インセンティブ報酬として機能するよう、ストックオプションによる報酬も組み入れています。なお、社外取締役の報酬は、その役割と独立性の観点から固定報のみとしています。取締役の報酬は、株主総会で承認された範囲内で、取締役会の決議により決定しています。取締役会で報酬等を決議する際は、その客観性を高めるため、社外取締役からの意見を求めるものとしています。

取締役・監査役トレーニング

取締役会は、取締役・監査役が期待される役割・責務を適切に果たすため、必要な知識の習得等の研鑽に努めることを奨励し、このためのトレーニング機会の提供や斡旋、必要な費用の支援を行います。また、社外取締役および社外監査役については、当社事業をより深く理解するための事業内容の説明等の機会を設けています。

社外取締役・社外監査役の主な活動と選任理由

区分 氏名	取締役会 (13回開催)	監査役会 (13回開催)	選任理由
社外取締役 一柳 良雄 氏	13回出席	—	経済、産業政策等の分野における豊富な経験とともに企業経営者としての経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることより、社外取締役として選任しています。
社外取締役 残間 里江子 氏	— (2016年6月より就任)	—	プロデューサーとしてイベントの企画やPR・広報戦略における豊富な経験とともに企業経営者として経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることより、社外取締役として選任しています。 (略歴は24ページ参照)
社外監査役 新川 大祐 氏	13回出席	13回出席	公認会計士・税理士としての豊富な経験を有しており、主に経理・税務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。
社外監査役 野村 祥子 氏	10回出席※	10回出席※	弁護士としての豊富な経験を有しており、主に法務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。

※社外監査役 野村祥子氏は、2015年6月の就任以降に開催した取締役会10回および監査役会10回全てに出席しています。

株主総会

当社の最高意思決定機関として、重要事項を決定するとともに、連結計算書類の内容等を報告しています。

議決権の行使については、パソコンやスマートフォン等を使用することでインターネットからの行使も可能です。

また、総会後には工場見学会を開催し、株主の皆様にも事業内容をさらに深く理解していただくよう努めています。



株主総会後の本社工場見学会

決算説明会

証券アナリスト、機関投資家向けに決算説明会を本決算、中間決算の年2回、東京にて開催しています。

決算説明会には代表取締役社長が出席し、業績の結果や見通し、将来のビジョンなどを説明することで、機関投資家とのコミュニケーションを図っています。



決算説明会(東京)

個人投資家向け説明会

多くの個人投資家に当社の事業内容や事業方針などを知っていただくため、個人投資家向け説明会を開催しています。

当年度も8月に東京、2月に東京と和歌山で説明会を開催し、多数の個人投資家にご参加いただきました。

今後もさらに事業内容の理解促進を図り、知名度の向上と企業認知の拡大に努めていきます。



個人投資家向け説明会(和歌山)

IRメディアの活用

株主や投資家の皆様に、当社の事業内容や業績をより理解していただくため、アニュアルレポートや株主通信「株主のみなさまへ」の発行、株主アンケートの実施、当社ホームページ・IR情報での迅速な情報開示など、さまざまなIRメディアの充実に取り組んでいます。



株主通信「株主のみなさまへ」

取締役および監査役

2016年7月1日現在



代表取締役社長

島 正博

営業本部長



取締役副社長

島 三博

営業本部副本部長兼
経営企画部担当



常務取締役

和田 隆

生産本部長兼
生産技術部、製造技術部、
システム製造技術部担当



常務取締役

有北 礼治

開発本部長



常務取締役

梅田 郁人

営業本部副本部長兼
島精機(香港)有限公司CEO



取締役

藤田 紀

総務人事部長



取締役

中嶋 利夫

トータルデザインセンター部長



取締役

南木 隆

経理財務部長兼管理部、
物流部担当



取締役

西谷 泰和

資材部長



取締役

西川 清方

営業統括部長



取締役

一柳 良雄

社外取締役
株式会社一柳アソシエイツ
代表取締役&CEO



取締役

残間 里江子

社外取締役
株式会社キャンディッドプロデュース
代表取締役社長

社外取締役 残間里江子氏のご紹介

2016年6月より、株式会社キャンディッドプロデュース代表取締役社長の残間里江子氏を当社の社外取締役に迎えました。同氏のプロデューサーとしての豊富な経験や、企業経営者としての経営全般にわたる幅広い見識を活かし、ガバナンス体制をより強化していきます。

【略歴】

1980年 株式会社キャンディッド(現 株式会社キャンディッド・コミュニケーションズ)設立
代表取締役社長

2005年 株式会社クリエイティブ・シニア(現 株式会社キャンディッドプロデュース)設立
代表取締役社長(現任)



監査役

植田 光紀

常勤監査役



監査役

田中 雅夫

常勤監査役



監査役

新川 大祐

社外監査役
公認会計士・税理士



監査役

野村 祥子

社外監査役
弁護士



財務情報について

財務に関する次の情報は、有価証券報告書をご覧ください。

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 連結包括利益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 連結財務諸表注記

第55期 有価証券報告書

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/library/2016.html>

※ 財務数値について

この日本語版アニュアルレポートは、海外の読者向けに作成された英語版アニュアルレポートを翻訳したものです。そのため、有価証券報告書の財務数値と異なる箇所があります。

会社概要

商号 株式会社島精機製作所
 本社 〒641-8511 和歌山市坂田85番地
 Tel: (073)471-0511(代) Fax: (073)474-8267
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員数 1,244名(連結1,788名)
 U R L 企業トップページ <http://www.shimaseiki.co.jp>
 IR・投資家情報 <http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>



連結子会社 株式会社シマファインプレス SHIMA SEIKI EUROPE LTD.
 ティーエスエム工業株式会社 SHIMA SEIKI U.S.A. INC.
 株式会社海南精密 島精機(香港)有限公司(SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)
 東洋紡糸工業株式会社 SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.
 島精榮(上海)貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)
 SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.
 東莞島精貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)
 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.
 SHIMA SEIKI KOREA INC.

投資家情報

決算期 3月31日
 定時株主総会 6月
 発行可能株式総数 142,000,000株
 発行済株式総数 36,600,000株
 株主数 18,113名
 上場取引所 東京証券取引所市場第一部
 監査法人 大手前監査法人

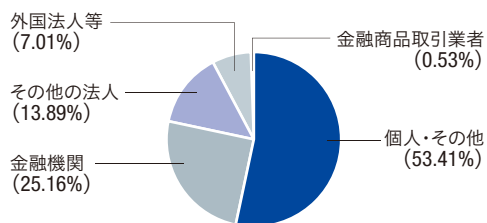
主要大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
和島興産株式会社	4,020	11.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,810	5.29
株式会社紀陽銀行	1,459	4.26
島正博	1,070	3.13
島三博	1,061	3.10
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.57
合同会社和光	780	2.28
シマセイキ社員持株会	704	2.06
株式会社池田泉州銀行	700	2.05
後藤ひろみ	697	2.04

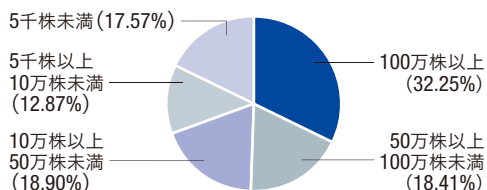
(注)1. 当社は、自己株式2,382千株(6.51%)を保有していますが、上記大株主から除外しています。
 持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
 2. 株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。

株式分布

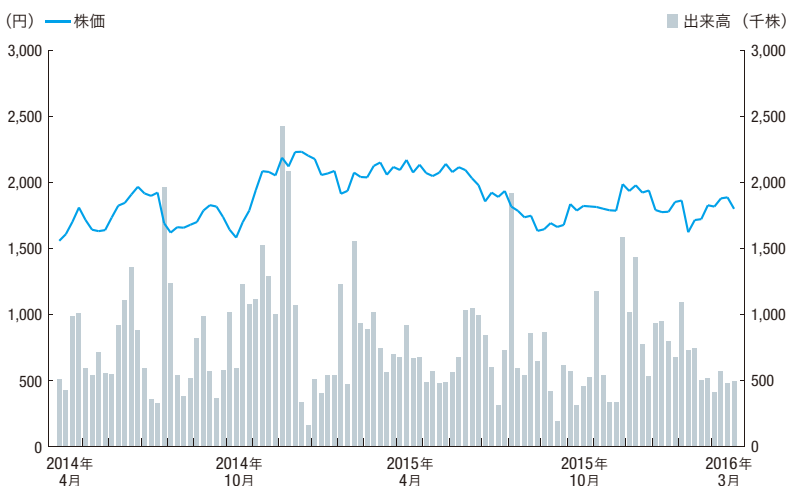
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移



IRサイトのご紹介

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

当社のIR情報をホームページに掲載しています。業績などの最新情報はもちろん、よくある質問・回答や用語解説など役立つコンテンツをご用意しています。ぜひ一度、ご覧ください。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

Tel: (073) 471-0511 (代) Fax: (073) 474-8267

ir@shimaseiki.co.jp

<http://www.shimaseiki.co.jp>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、WHOLEGARMENT、ホールガーメント、MACH2、SWG、SES、SSG、SSR、SVR、SRY、SDS、SDS-ONE、SDS-ONE APEX、SIP、P-CAM、TOTAL FASHION SYSTEM、トータルファッションシステム、Kneave、AIRDROBE、Shima KnitPLMは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。